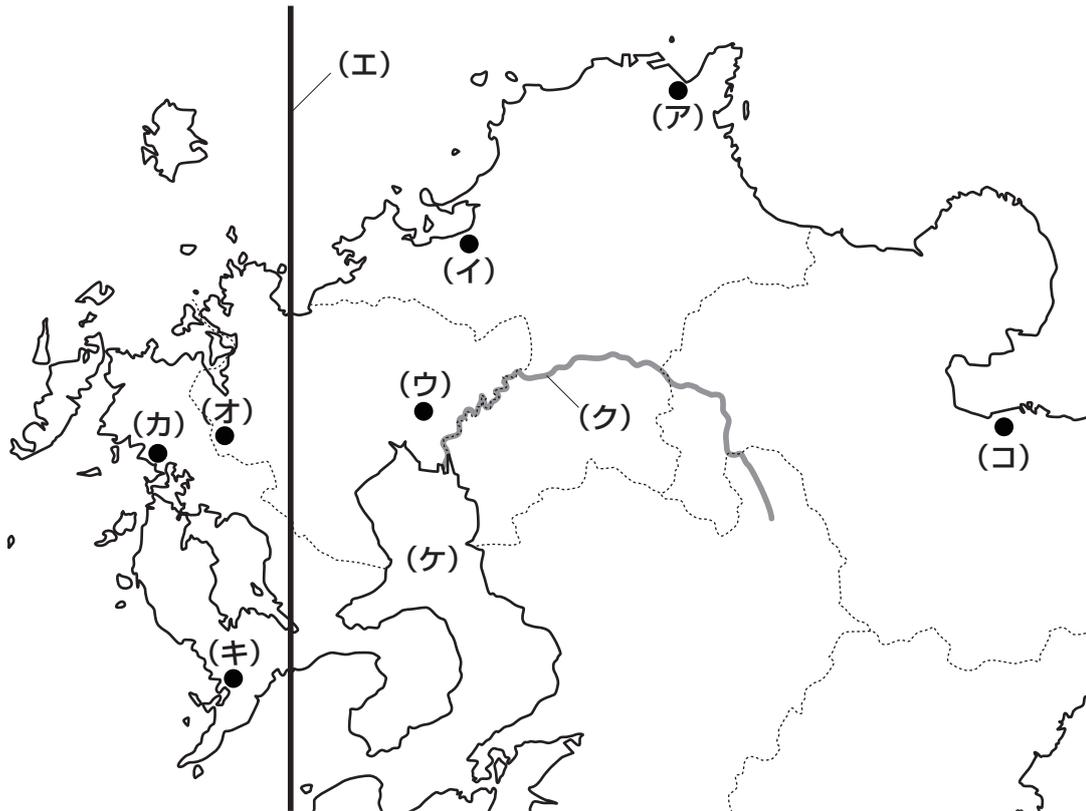




- 1 北九州地方について、次の【地図】を見て、あとの問いに答えなさい。

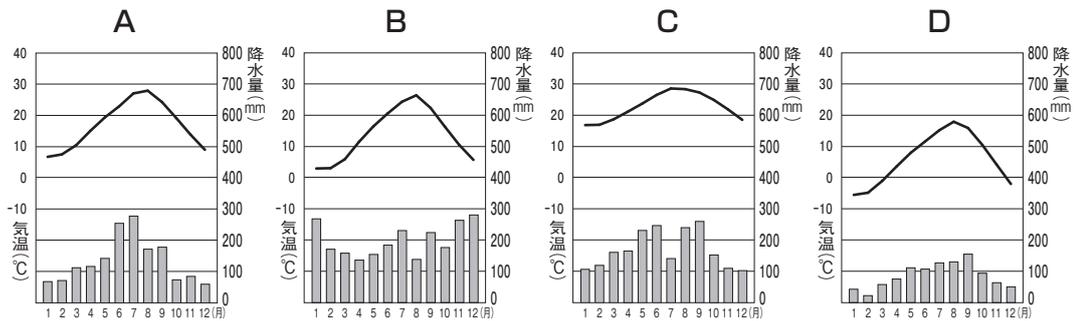
【地図】



問1 【地図】中の(ア)で示された都市を中心とする工業地帯について述べた文として正しいものを、次のA～Dの中からひとつ選んでアルファベットで答えなさい。

- A 福岡県と山口県の間にある関門海峡から大村湾の奥<sup>おく</sup>にかけて、東西約30キロメートルにわたって広がる工業地帯である。
- B 製造品出荷額等<sup>しゅつが</sup>(2016年)の構成では、金属の割合が最も高く、続いて機械、食料品の順番に割合が高い。
- C 日露戦争後に八幡製鉄所が操業を開始してから工業が発展し、第一次世界大戦の頃には日本の四大工業地帯のひとつとしての地位を築いた。
- D 第二次世界大戦後、中華人民共和国との貿易が中断したことや、エネルギー革命<sup>えいさきやう</sup>の影響で石炭産業が衰退<sup>ずいたい</sup>したことなどによって、地位が低下した。

問2 [地図] 中の(イ)における月別平均気温と降水量を示しているグラフを、次のA～Dの中からひとつ選んでアルファベットで答えなさい。



(『理科年表 平成29年』より作成)

問3 次の[資料] ①～③は、[地図] 中の(イ)を県庁所在地とするX県、(ウ)を県庁所在地とするY県、(キ)を県庁所在地とするZ県のいずれかの農産物産出額の順位を示しています。①～③とX～Zの組み合わせとしてふさわしいものを、次のA～Fの中からひとつ選んでアルファベットで答えなさい。

[資料]

順位	①		②		③	
	農産物	産出額(億円)	農産物	産出額(億円)	農産物	産出額(億円)
1	米	249	肉用牛	198	米	370
2	肉用牛	147	ばれいしょ	128	いちご	209
3	たまねぎ	139	米	122	鶏卵	142
4	みかん	115	豚	122	生乳	91
5	いちご	99	いちご	111	ぶどう	74
6	ブロイラー	78	みかん	86	トマト	71
7	豚	57	鶏卵	57	なす	67
8	きゅうり	33	生乳	56	肉用牛	61
9	アスパラガス	33	トマト	55	ねぎ	61
10	大豆	25	ブロイラー	51	豚	58

(「農林水産省 生産農業所得統計(平成27年)」より作成)

- |   |     |     |     |
|---|-----|-----|-----|
| A | ①—X | ②—Y | ③—Z |
| B | ①—X | ②—Z | ③—Y |
| C | ①—Y | ②—X | ③—Z |
| D | ①—Y | ②—Z | ③—X |
| E | ①—Z | ②—X | ③—Y |
| F | ①—Z | ②—Y | ③—X |

問4 【地図】 中の(工)は、九州の西端せいたんに近い東経130度の経線を示しています。日本の東端である南鳥島で日の出となつてから、この東経130度の経線上の場所で日の出となるまでの時間を、次のA～Dの中からひとつ選んでアルファベットで答えなさい。

- A 約1時間06分                      B 約1時間36分  
C 約2時間06分                      D 約2時間36分

問5 【地図】 中の(オ)で示された町の伝統工業について述べた文としてふさわしいものを、次のA～Dの中からひとつ選んでアルファベットで答えなさい。

- A 本場大島つむぎとよばれる絹織物の生産が盛さかんである。  
B 熊野筆とよばれる筆の生産が盛さかんである。  
C 有田焼とよばれる陶磁器の生産が盛さかんである。  
D 南部鉄器とよばれる鉄器の生産が盛さかんである。

問6 【地図】 中の(カ)で示された都市は、明治時代以来、軍港として栄え、第二次世界大戦後は、米軍基地や自衛隊の基地が置かれています。また、造船業が盛さかんであることでも知られています。この都市を漢字で答えなさい。

問7 【地図】 中の(ク)で示された河川について、(1)・(2)それぞれの問いに答えなさい。

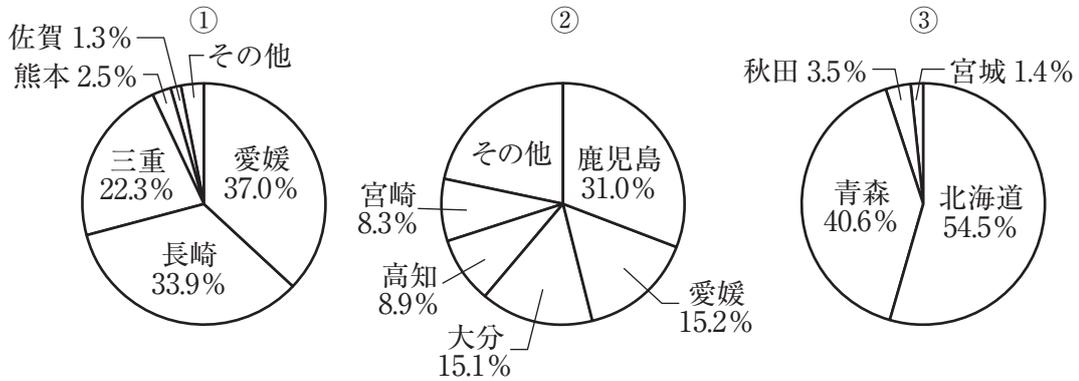
(1) この河川を漢字で答えなさい。

(2) この河川について述べた文としてふさわしいものを、次のA～Dの中からひとつ選んでアルファベットで答えなさい。

- A 福岡・佐賀・熊本・大分の4県を流れる九州で最も長い河川である。  
B 上流部の付近では、2017年7月に大規模な地震が発生して大きな被害が出た。  
C 下流部に広がる平野では、クリークとよばれる堤防ひがいがつくられてきた。  
D 下流部に広がる平野では、米の二期作が盛さかんである。

問8 【地図】中の(ケ)で示された海では、のりの養殖が盛んです。次の【資料】は、日本における都道府県別の養殖魚種別取獲量の割合を示しています。【資料】①～③は、ぶり類、ほたて貝、真珠のいずれかを示しています。①～③とぶり類、ほたて貝、真珠の組み合わせとしてふさわしいものを、次のA～Fの中からひとつ選んでアルファベットで答えなさい。

【資料】



(「農林水産省 漁業・養殖業生産統計 (平成27年)」より作成)

- |   |        |        |        |
|---|--------|--------|--------|
| A | ①—ぶり類  | ②—ほたて貝 | ③—真珠   |
| B | ①—ぶり類  | ②—真珠   | ③—ほたて貝 |
| C | ①—ほたて貝 | ②—ぶり類  | ③—真珠   |
| D | ①—ほたて貝 | ②—真珠   | ③—ぶり類  |
| E | ①—真珠   | ②—ぶり類  | ③—ほたて貝 |
| F | ①—真珠   | ②—ほたて貝 | ③—ぶり類  |

問9 【地図】中の(コ)で示された都市を県庁所在地とする県では、2016年7月に県やJAグループ、企業などが中心となって、「地産地消キャンペーン」が実施されました。このように日本各地で実施されている「地産地消」とはどのような取り組みですか。文章で説明しなさい。

- 2 次の文章は冷泉家<sup>れいぜいけ</sup>について述べられたものです。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

冷泉家<sup>れいぜいけ</sup>は和歌で名高い一族です。その住宅<sup>じゅうたく</sup>は、現在、京都御所<sup>きょうしよ</sup>の北側<sup>きたがわ</sup>に位置し、重要文化財に指定されています。この家系は、(ア)藤原鎌足<sup>ふじわらのとしなり</sup>に始まる藤原氏の血統であり、平安時代に(イ)撰閔政治<sup>せんみんせいじ</sup>の全盛期<sup>ぜんせいき</sup>を築いた藤原道長<sup>ふじわらのみちなが</sup>の子孫<sup>こすん</sup>でもあります。

冷泉家<sup>れいぜいけ</sup>を創設した為相<sup>ためすけ</sup>の曾祖父<sup>そうそふ</sup>である藤原俊成<sup>ふじわらのとしなり</sup>は、(ウ)崇徳上皇<sup>すんとく</sup>の時代に歌人として活躍し、また後白河上皇<sup>ごしろくじょう</sup>の命令により和歌集を編纂<sup>へんさん</sup>しています。その子の藤原定家<sup>ふじわらのさだか</sup>も、(エ)後鳥羽上皇<sup>ごとりよじょう</sup>の命令により『(オ)』<sup>へんさん</sup>を編纂<sup>へんさん</sup>したことで有名です。『平家物語』には、平氏が京都から「都落ち」する際に、平忠度<sup>へいしゅと</sup>が自作の和歌を記した巻物<sup>まきもの</sup>を俊成<sup>すんせい</sup>に託<sup>たく</sup>していったという話が収められています。

室町時代には、(カ)足利将軍家<sup>あしかがしげんけ</sup>とも関わりをもち、戦国時代になると、(キ)今川氏<sup>いまがわうぢ</sup>などの保護を受けたことがあったようです。

江戸時代に入り、徳川家康<sup>とくがわん</sup>が冷泉家<sup>れいぜいけ</sup>伝来の藤原定家<sup>ふじわらのさだか</sup>の日記である『明月記』<sup>めいげつぎ</sup>を書写させたり、冷泉家<sup>れいぜいけ</sup>の古典籍<sup>こてんせき</sup>を収めた蔵「御文庫」<sup>おぶんこ</sup>が天皇の命令によって封<sup>ふう</sup>されたりしました。

(ク)明治となり天皇が東京に移ると、公家たちも天皇に従って東京へ移りました。一方で冷泉家<sup>れいぜいけ</sup>は、京都に残ったために(ケ)関東大震災<sup>ひがひ</sup>などの被害<sup>ひがい</sup>も受けず、多くの貴重な書籍<sup>しよせき</sup>を守り伝えています。

(注) 上冷泉家<sup>かみれいぜいけ</sup>を「冷泉家<sup>れいぜいけ</sup>」と表記しています。

問1 下線部(ア)に関連して、(1)・(2)それぞれの問いに答えなさい。

- (1) 下線部(ア)が活躍<sup>かつやく</sup>した時期における出来事<sup>きこ</sup>について述べた文としてふさわしくないものを、次のA～Dの中からひとつ選んでアルファベットで答えなさい。

- A 白村江の戦いが起こった。
- B 後漢より金印<sup>あたら</sup>を与えられた。
- C 唐は高句麗<sup>しんこう</sup>への侵攻<sup>しんこう</sup>を始めた。
- D 白村江の戦い後、近江国の大津宮へ都を移した。

- (2) 下線部(ア)一族は、大化の改新以前には主に神事<sup>つかさど</sup>を司<sup>つかさど</sup>っていました。日本における神事や信仰に関連して述べた文として正しいものを、次のA～Dの中からひとつ選んでアルファベットで答えなさい。

- A 熊本県稲荷山古墳から出土した銅剣には、主として当時の神事の手法が刻まれている。
- B 蘇我氏は、古来の神々<sup>しんこう</sup>を信仰<sup>しんこう</sup>することを重要視し、仏教の導入に反対した。
- C 青森県三内丸山遺跡から、主として豊作<sup>いの</sup>を祈るために作られたとされる埴輪<sup>ひの</sup>が発見されている。
- D 邪馬台国の女王であった卑弥呼<sup>ひみこ</sup>は、宗教<sup>ぎしき</sup>的な儀式<sup>けんい</sup>や権威<sup>けんい</sup>にもとづいて政治をおこなったとされる。

問2 下線部(イ)の時代には、大陸文化を消化したうえで、日本の風土にあった文化が生まれました。このような文化が形成された一因として、遣唐大使に任じられた「ある人物」の提案による遣唐使の派遣の中止が挙げられます。「ある人物」を、姓名ともに漢字で答えなさい。

問3 下線部(ウ)と後白河天皇の対立などによって、1156年に京都で戦乱が起こりました。この戦乱は、天皇家のみならず、藤原氏・源氏・平氏を二分した争いでした。この戦乱を、次のA～Dの中からひとつ選んでアルファベットで答えなさい。

- A 保元の乱      B 壬申の乱      C 平治の乱      D 承久の乱

問4 下線部(エ)に関連して述べた文として正しいものを、次のA～Dの中からひとつ選んでアルファベットで答えなさい。

- A 後鳥羽上皇は、平清盛に敗れ、隠岐へ流された。  
B 後鳥羽上皇は、天皇を後見しながら実権を握る院政を初めておこなった。  
C 後鳥羽上皇は、京都の東山に銀閣を建立した。  
D 後鳥羽上皇の兄である安徳天皇は、平清盛の孫である。

問5 空欄(オ)にあてはまる勅撰和歌集を漢字で答えなさい。

問6 下線部(カ)に関連して、「ある将軍」は、現在の冷泉家住宅の近辺に屋敷を建てました。その建物は室町通に面したため、室町殿ともよばれ、「室町」幕府の名称の由来ともなりました。「ある将軍」を、姓名ともに漢字で答えなさい。

**問7** 下線部(キ)に関連して、今川義元を桶狭間の戦いでやぶった人物を、次のA～Dの中からひとり選んでアルファベットで答えなさい。

- A 上杉謙信      B 武田信玄      C 明智光秀      D 織田信長

**問8** 下線部(ク)に関連して、明治期の出来事について述べた文として正しいものを、次のA～Dの中からひとつ選んでアルファベットで答えなさい。

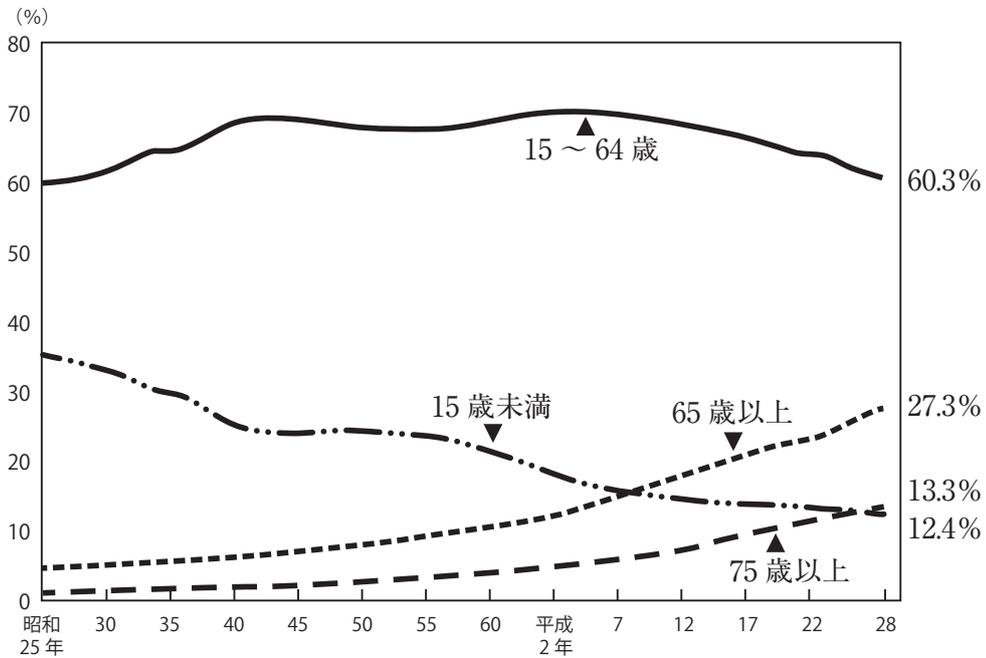
- A 第一次世界大戦が起こった際、日本は三国同盟側に立って参戦した。  
B セオドア＝ローズヴェルトの仲立ちによって、日清戦争の講和条約が締結された。  
C 板垣退助らは、民撰議院設立建白書を提出し、国会の設立を求めた。  
D 版籍奉還がおこなわれたことによって、すべての藩が廃止されて府・県が置かれた。

**問9** 下線部(ケ)が起こった大正期には、大正デモクラシーとよばれる風潮が広まりました。この時期に、普通選挙法によって衆議院議員の選挙権者はどのように規定されましたか。文章で説明しなさい。

**3** 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

(ア) 総務省は、平成29年4月14日に、平成28年10月1日現在の人口推計を公表しました。次の【資料1】～【資料3】は、その結果に関連するものです。

【資料1】 <sup>ねんれい</sup>年齢3区分別人口の割合の推移（昭和25年～平成28年）



【資料2】 総人口の推移（平成2年～平成28年）

年次	10月1日 現在人口	人口増減（前年10月～当年9月）									
		純増減 <sup>1)</sup>		自然動態 <sup>2)</sup>			社会動態 <sup>3)</sup>				
		増減数	増減率(%) <sup>4)</sup>	出生児数	死亡者数	自然増減	入国者数	出国者数	社会増減	日本人	外国人
平成2年	123,611 <sup>5)</sup>	406	0.33	1,241	824	417	11,303	11,301	2	-30	32
3	124,101	490	0.40	1,224	829	394	11,168	11,130	38	-19	57
4	124,567	466	0.38	1,228	854	374	12,720	12,685	34	-7	41
5	124,938	370	0.30	1,205	882	322	12,398	12,408	-10	-17	8
6	125,265	327	0.26	1,229	877	351	13,982	14,064	-82	-76	-6
7	125,570 <sup>5)</sup>	305	0.24	1,222	925	297	15,653	15,703	-50	-50	0
8	125,859	289	0.23	1,203	896	307	17,375	17,388	-13	-35	23
9	126,157	297	0.24	1,209	921	288	17,974	17,960	14	-42	56
10	126,472	315	0.25	1,215	933	282	17,028	16,990	38	-2	40
11	126,667	195	0.15	1,198	985	212	17,237	17,249	-12	-43	30
12	126,926 <sup>5)</sup>	259	0.20	1,194	968	226	18,462	18,424	38	-50	88
13	127,316	390	0.31	1,185	966	219	19,266	19,120	146	66	79
14	127,486	170	0.13	1,176	981	195	16,321	16,372	-51	-104	53
15	127,694	208	0.16	1,138	1,023	115	15,038	14,970	68	3	65
16	127,787	93	0.07	1,126	1,024	103	17,673	17,709	-35	-77	42
17	127,768 <sup>5)</sup>	-19	-0.01	1,087	1,078	9	18,951	19,004	-53	-103	50
18	127,901	133	0.10	1,091	1,090	1	2,836	2,835	1	-60	61
19	128,033	132	0.10	1,102	1,104	-2	2,882	2,879	4	-75	79
20	128,084	51	0.04	1,108	1,142	-35	2,864	2,908	-45	-110	65
21	128,032	-52	-0.04	1,087	1,146	-59	3,114	3,237	-124	-77	-47
22	128,057 <sup>5)</sup>	26	0.02	1,083	1,188	-105	2,840	2,840	0	4	-4
23	127,834	-223	-0.17	1,074	1,256	-183	2,686	2,765	-79	-28	-51
24	127,593	-242	-0.19	1,047	1,248	-201	2,757	2,836	-79	-23	-56
25	127,414	-179	-0.14	1,045	1,277	-232	2,796	2,782	14	-23	37
26	127,237	-177	-0.14	1,022	1,274	-252	2,911	2,874	36	-23	60
27	127,095 <sup>5)</sup>	-142	-0.11	1,025	1,301	-275	3,080	2,985	94	-1	95
28	126,933	-162	-0.13	1,004	1,300	-296	3,361	3,228	134	-2	136

注1) 平成27年までの純増減には補間補正数を含む。このため、純増減は自然増減と社会増減の計とは一致しない。

2) 「人口動態統計」（厚生労働省）による。

3) 「出入国管理統計」（法務省）による。平成17年までの日本人については、海外滞在90日以内の入国者数、出国者数を含めている。

4) 前年10月から当年9月までの増減数を前年人口（期首人口）で除したもの

5) 国勢調査人口

6) 表中の「-」は減少を示している。

**【資料3】 都道府県別人口増減率**

(単位 %)

人口増減率 順位	都道府県	人口増減率	人口増減率 順位	都道府県	人口増減率	人口増減率 順位	都道府県	人口増減率
		平成28年			平成28年			平成28年
—	全 国	-0.13	16	静 岡 県	-0.34	32	鹿 児 島 県	-0.66
1	東 京 都	0.80	17	岡 山 県	-0.36	33	熊 本 県	-0.67
2	沖 縄 県	0.40	18	茨 城 県	-0.42	34	鳥 取 県	-0.68
3	埼 玉 県	0.32	18	栃 木 県	-0.42	35	福 島 県	-0.69
3	愛 知 県	0.32	18	三 重 県	-0.42	36	宮 崎 県	-0.72
5	千 葉 県	0.21	21	香 川 県	-0.43	37	山 口 県	-0.74
6	神 奈 川 県	0.20	22	富 山 県	-0.47	37	徳 島 県	-0.74
7	福 岡 県	0.06	23	岐 阜 県	-0.49	39	愛 媛 県	-0.75
8	滋 賀 県	-0.01	24	長 野 県	-0.51	39	長 崎 県	-0.75
9	大 阪 府	-0.08	25	佐 賀 県	-0.54	41	新 潟 県	-0.80
10	宮 城 県	-0.16	26	福 井 県	-0.55	42	岩 手 県	-0.91
11	京 都 府	-0.19	27	北 海 道	-0.56	43	山 形 県	-0.96
12	広 島 県	-0.23	28	大 分 県	-0.57	44	和 歌 山 県	-0.99
13	石 川 県	-0.27	29	奈 良 県	-0.59	45	高 知 県	-1.00
13	兵 庫 県	-0.27	30	山 梨 県	-0.63	46	青 森 県	-1.13
15	群 馬 県	-0.30	31	島 根 県	-0.64	47	秋 田 県	-1.30

注1) 人口増減率 (%) =  $\frac{\text{人口増減 (前年10月～当年9月)}}{\text{前年10月1日現在人口}} \times 100$   
 人口増減 = 自然増減 + 社会増減

2) 表中の「-」は減少を示している。

(総務省統計局ホームページより作成)

これらの【資料1】～【資料3】から、次のようなことがわかります。

- 【資料1】によると、15歳未満人口の割合は、過去最低の12.4%であるのに対して、65歳以上人口の割合は、27.3%であり、過去最高となっています。
- 【資料2】によると、平成28年の総人口は、前年より16万2千人減って、1億2693万3千人で、6年連続で減少しました。平成(イ)年に、戦後初めて前年を下回った総人口は、平成(ウ)年の人口を最大値として、(エ)平成23年以降は減少を続けています。
- 【資料2】中の「自然増減」は出生児数から死亡者数を引いたものであり、平成(オ)年以降は減少が続いています。また、【資料2】中の「社会増減」には、日本への入国、あるいは日本からの出国によって生じた増減数が示されています。平成28年をみると、日本人は減少しているのに対し、(カ)外国人は4年連続で増加しており、その増加幅は拡大しています。
- 【資料3】によると、平成28年の人口増減率を都道府県別にみると、増加したのは(キ)都県であり、そのうち(ク)東京都が最も高くなっています。一方、それ以外の地域における人口は減少しています。

問1 下線部(ア)の担当する仕事のひとつに選挙の実施<sup>じっし</sup>があります。日本における選挙制度について述べた文として誤<sup>あやま</sup>っているものを、次のA~Dの中からひとつ選んでアルファベットで答えなさい。

- A 参議院議員選挙では、小選挙区制が採用されている。
- B 比例代表制のもとでは、小党乱立になり、政局が不安定になる傾向<sup>けいこう</sup>がある。
- C 議員ひとり当たり<sup>あた</sup>りの有権者数の格差が問題視されている。
- D 選挙権は満18歳<sup>さい</sup>以上の男女に与えられている。

問2 空欄<sup>らん</sup> (イ)・(ウ)・(オ) にあてはまる数字を、[資料2]を参考にそれぞれ答えなさい。

問3 下線部(エ)の年に東日本大震災<sup>しんさい</sup>が起こり、この年最初に公布された法律は地震防災対策に関するものでした。法律が制定されるまでの過程について述べた下記文章中のA~Dのうち、誤<sup>あやま</sup>っているものをひとつ選んでアルファベットで答えなさい。

法律案が議員や内閣から提出された場合、A法律案を先に審議するのは衆議院でも参議院でもどちらでもよいが、両院の議決が一致しないときは、B必要に応じて両院協議会を開く。その上で、両院の意見がまとまらないときは、Cもう一度衆議院の本会議にかけて、D出席議員の過半数で再び可決されれば、法律は成立する。

問4 下線部(カ)に関連して、日本に入ってくる外国人数が増加している中、難民認定申請<sup>しんせい</sup>者数も増加しています。世界全体でみても深刻になっているこの難民問題の解決に努める国際連合の機関を、次のA~Dの中からひとつ選んでアルファベットで答えなさい。

- A UNHCR
- B UNEP
- C IAEA
- D FAO

問5 空欄<sup>らん</sup> (キ) にあてはまる数字を、[資料3]を参考に答えなさい。

問6 下線部(ク)では平成28年に都知事選挙<sup>じっし</sup>が実施されました。都道府県知事について述べた文として正しいものを、次のA~Dの中からひとつ選んでアルファベットで答えなさい。

- A 都道府県知事選挙における被選挙権は満25歳<sup>さい</sup>以上である。
- B 都道府県知事の補助機関のひとつとして副知事が挙げられる。
- C 都道府県知事は都道府県議会の同意なく予算を決定できる。
- D 都道府県知事の任期は6年である。

問7 [資料1]からわかるように、日本は少子高齢<sup>こうれい</sup>社会であり、このため、国庫財政の収入のうち間接税の割合を高めていこうという考えがあります。このような考えがあるのはなぜですか。「所得税」という語句を用いて文章で説明しなさい。

